

【下巻 記録史料の管理】

III 日本のアーカイブズの構造

- 1 章 アーカイブズを理解する ……………大友一雄………2
 — 史料構造論の展開
- はじめに 2
- 1 アーカイブズを理解するために 2
- 2 史料群の理解に関わる研究の動向 5
- 1) 組織体における記録管理に関する研究
- 2) 記録史料の伝来に関する研究
- 3) 史料群の階層構造に関する研究
- おわりに 13
- 2 章 近世領主文書の伝来と構造 ……………福田千鶴………17
- はじめに 17
- 1 大名文書の成立と伝来 18
- 2 大名文書の構造 24
- 3 残された課題 29
- 3 章 近世地方文書の史料群構造 ……………富善一敏………34
- はじめに 34
- 1 浅田家文書の概要 35
- 2 狛組（加茂組）大庄屋文書について 39
- 1) 藤堂藩大庄屋の職務

- 2) 狛組（加茂組）大庄屋とその作成文書
- 3) 1732年（享保17）の大庄屋文書引き渡し
- 4) 引き継ぎの有無と大庄屋文書の内容との関連
むすびにかえて 52

4章 近現代公文書の史料群構造……………鈴木英一……………57

はじめに 57

- 1 史料群の全体的な構造について 58
 - 1) 史料群の全体像
 - 2) 北海道庁第一文庫の“簿書”
- 2 史料群の内部構造 61
 - 1) 開拓使文書の内部構造
 - 2) 開拓使の「編集文書」群の場合
- 3 類目編纂と史料群構造の変化 67
 - 1) 札幌県の類目編纂
 - 2) 北海道庁の類目編纂
- 4 史料群の集積と複合——まとめにかえて 70

5章 近代の企業記録……………小風秀雅……………73

はじめに 73

- 1 企業資料とはなにか 73
- 2 企業資料の特徴 77
- 3 企業資料の体系性 80
 - 1) 企業資料の体系
 - 2) 保存と廃棄

おわりに 87

IV アーカイバル・コントロール

《1編 ドキュメンテーション・プログラム》

1章 アーカイブズを残す……………鈴木英一……………90

はじめに 90

- 1 緊急的救済としての戦後史料保存 91
 - 1) 戦後史料保存の契機
 - 2) 現地保存主義と文書館運動
 - 3) 勸告「歴史資料保存法」にみる史料保存の性格
 - 2 現代文書の保存体制 95
 - 1) 近現代文書保存の方法
 - 2) 現代文書の保存システムと「記録のライフサイクル」
 - 3) 「評価選別」の課題
 - 4) 評価選別とアーキビスト
 - 3 史料保存の意義と文書館 100
 - 1) 文書館の意義再考
 - 2) 保存する主体
- むすびにかえて 103

2章 評価選別論の歩みと現在……………石原一則…………105

はじめに 105

- 1 評価選別論とは何か 105
 - 2 評価選別の目的 106
 - 3 評価選別論の歩み 108
 - 1) 行政体レベル論——マイスナー論
 - 2) アーカイブズ無介入主義——ジェンキンソン
 - 3) 証拠の概念——シェレンバーグ
 - 4 評価選別論の現在——価値と証拠 114
- おわりに 115

3章 組織体の記録管理……………戸島昭…………119

はじめに——文書記録の保存 119

- 1 組織体の掌握——その区分と特徴 121
 - 1) 公法人と私法人
 - 2) 公益法人・中間法人・営利法人
 - 3) 社団法人・財団法人・特殊法人・独立行政法人

- 4) 非法人団体
- 5) 新たな民間組織体
- 2 文書・記録・史料の移行過程——組織内利用から一般利用へ 124
- 3 公文書館・文書館・史料館の機能——役割分担と協力関係 126
- 4 行政組織体（官公庁）の記録管理 128
 - 1) 現用文書記録の保管
 - 2) 非現用文書記録の保存
 - 3) 全国歴史資料保存利用機関連絡協議会（設立 1976 年）の活動
- 5 企業組織体（民間会社）の記録管理 134
 - 1) 現用文書記録の保管
 - 2) 非現用文書記録の保存
 - 3) 企業史料協議会（設立 1981 年）の活動
- 6 公益組織体（大学・日本放送協会・寺院・教会）の記録管理 137
 - 1) 大学の場合
 - 2) 日本放送協会の場合
 - 3) 病院の場合
 - 4) 寺院・教会の場合
- 7 地域組織体（町内会・自治会・財産区）の記録管理 140
 - 1) 現用文書記録の保管事例
 - 2) 非現用文書記録の保存事例（公立文書館への寄贈・寄託）
 - 3) 保存利用施設の設置事例
- 8 新しい民間組織体（NGO・NPO）の記録管理 141
 - 1) 現用文書記録の保管
 - 2) 非現用文書記録の保存事例
- 9 民間任意団体の記録管理 142
 - 1) 現用文書記録の保管
 - 2) 非現用文書記録の保存事例
- 10 公立文書館の引継移管体制——公文書記録と私文書記録 143
 - 1) 設置主体の公文書の引き継ぎ
 - 2) 地域社会の記録史料の受け入れ
- おわりに——記録史料の活用 11

はじめに 147

- 1 公文書の評価・選別の現状 147
 - 1) 公文書の引き継ぎ・移管と評価・選別
 - 2) 収集基準の制定について
 - 3) 評価・選別の実践——現場からの実践例
 - 2 公文書の評価・選別論の展開——実践からの方法論 153
 - 3 公文書の評価・選別の課題 156
 - 4 公文書の評価・選別の今後の展望 158
 - 1) 理論と実践の「はざま」で
 - 2) 評価・選別とアーキビストの専門性（アーキビストの養成）
- おわりに 159

5章 地域史料調査論 ……………高橋実……………162

はじめに 162

- 1 原形尊重論の源流 163
- 2 原形尊重認識の再生 164
- 3 史料調査法の変遷 165
 - 1) 従来の史料調査法
 - 2) 従来の史料調査方法への疑問と反省
- 4 新しい史料調査法の提示と試行 166
 - 1) 文書館学にもとづく整理論
 - 2) 新しい調査法の提示と試行
- 5 初期調査の目的と中間番号方式 168
 - 1) 初期調査の目的
 - 2) 中間番号方式の意味
- 6 史料調査会 170

おわりに——今後の課題と中間史料目録の試み 172

[補論] 文書館学(記録史料学)的史料整理論への批判について 174

《2編 アーカイバル・データの構築と提供》

1章 アーカイブズ編成・情報化論の現在 ……………青山英幸……………181

はじめに 181

1 「整理」論から「情報学」へ	181
2 日本における標準化への問題点	184
3 「アーカイバル・コントロール論」の視点から	186
1) 「ドキュメンテーション・プログラム」領域から「情報コントロール」領域へ	
2) 「情報コントロール」領域における編成・記述と検索システム	
むすびにかえて	194
2章 アーカイブズの編成と記述 ……………山崎圭……………	199
— 近世史料を中心に	
はじめに	199
1 近世史料の編成と記述をめぐるこれまでの歩み	199
1) 史料目録の変遷	
2) 史料目録の変遷——『史料館所蔵史料目録』を例に	
2 基本目録の編成と記述	204
1) 史料群構造の分析方法	
2) 記述の方法	
3 事例研究	205
1) 山田庄左衛門家文書について	
2) 編成——内容目録から基本目録へ	
3) 目録記述	
おわりに	211
3章 アーカイブズの編成と記述 ……………加藤聖文……………	215
— 近現代史料をめぐる課題	
はじめに——研究史整理	215
1 近現代公文書の特徴と編成・記述のあり方	216
2 近現代私文書の特徴と編成・記述のあり方	221
おわりに——今後の課題	226
4章 アーカイブズの編成と記述標準化……………森本祥子……………	236
— 国際的動向を中心に	
はじめに	236
1 議論の前提——「編成」「記述」「多角的検索」	236

2	目録・記述の標準化志向の歴史	239
	1) 諸外国の場合	
	2) 日本の場合	
3	ICA の国際標準	241
	1) 『記録史料記述に関する原則についての声明』	
	2) 「国際標準：記録史料記述の一般規則」第1版	
	3) 「国際標準：団体、個人、家に関する記録史料	オーソリティ・レコード」
	4) 「国際標準：記録史料記述の一般規則」第2版	
4	ISAD(G)以降の標準化をめぐる動き	248
	1) 国際環境での記述標準化の受け止め方	
	2) 日本における国際標準への対応状況	
5	国際標準化のこれから	253
	おわりに — 今後の日本における国際標準への対応	254
5	章 アーカイブズ情報の電子化とネットワーク	…五島敏芳……261
	— 電子的検索手段の国際規格	
	はじめに	261
1	アーカイブズ情報	261
2	アーカイブズ情報の電子化	263
	1) 情報の電子化の一般的前提	
	2) 電子的アーカイブズ情報の規格化・符号化	
3	電子的検索手段とネットワーク	265
	1) 電子的検索手段の特質	
	2) 電子的検索手段の国際規格	
	3) アーカイブズ情報のネットワーク	
	おわりに	274
6	章 アーカイブズ情報管理システムと検索手段	……………山田哲好……278
	はじめに	278
1	記録史料情報管理システムの基本構想	278
2	文書館での記録史料情報公開システムのあり方	280
3	発信システム	280

4 史料館での実践例 281

- 1) 史料館ホームページ上での史料情報公開の現状

V アーカイブズの保存と修復

1 章 アーカイブズの保存とは ……………青木睦……………298

はじめに 298

1 アーカイブズにおける保存と修復 299

2 記録史料の保存管理方法の変遷 304

- 1) 保存・修復の原則の浸透
- 2) 保存のためのネットワークづくり

3 保存管理の理論と実践 307

- 1) 保存・修復の原則
- 2) 記録史料の特徴，文書館史料の特徴と保存の問題
- 3) 記録史料の保存範囲

4 保存管理の新しい考え方と試み 311

- 1) 「大量保存」「段階的保存」(Phased Conservation)の考え方
- 2) 「予防的保存」(Preventive Preservation)の実施
- 3) 「将来的保存」(Prospective Preservation)の必要性
- 4) 地球環境とIPM(総合的害虫管理 Integrated Pest Management)の考え方
- 5) 保存計画と保存管理担当者(Preservation Administrator)
- 6) 被災史料救助と災害に対する予防対策

5 保存管理の実際——現状と課題 314

- 1) 保存環境の整備
- 2) 近現代史料の保存問題

6 文書館における保存修復専門職を考える 316

- 1) ICOM(国際博物館会議)「コンサーベーター，リストアラー：その職業定義について」
- 2) アメリカにおけるコンサーベーターの現状
- 3) 日本におけるコンサーベーターの現状

むすびにかえて 322

2章	保存環境コントロール	325
1	温度・湿度・光	稲葉政満.....325
	1) 環境管理の必要性	
	2) 温度	
	3) 湿度	
	4) 光	
	5) 保存システムとしての材料の寿命	
	6) 環境の測定	
2	空気環境	二宮修治.....338
	1) 空気中の化学物質	
	2) 屋内空気環境	
	3) 対策	
3	生物被害	木川りか.....357
	1) 防除法の基本的な考え方	
	2) 文書館等でみられる有害生物について	
	3) 予防管理システムをつくる	
	4) 発見時の対処	
4	包装材料	365
	1) 包材の今日的課題	稲葉政満.....365
	2) 包装材料——保存の対象となる写真の方式と種類	荒井宏子.....369
	3) 写真保存用容器・包装材料・包材について	
3章	予防措置と実際	376
1	アーカイブズを保護するための予防措置	大湾ゆかり.....376
	1) 劣化要因を知ろう	
	2) 段階的な措置を行う	
	3) 実際の方法	
2	写真画像の保存における劣化予防のための環境設定	荒井宏子.....386
	1) 保存中のプリント（写真印画）の劣化とその予防	
3	保存のための複製システム	新井浩文.....392
	1) 保存のための複製化の意義	
	2) 代替化の事例	

3) 複製化の展望

4 章	修復技術の新たな展開	398
1	海外における修復技術の発展	増田勝彦.....398
	1) 表具技術	
	2) 漉き嵌め法, リーフキャストイング	
	3) 脱酸技術	
	4) 接着剤	
	5) サクシオンテーブル	
	6) サクシオンテーブルと漉き嵌め法	
	7) 強化処置	
	8) 合成繊維布およびフィルム	
	9) ペーパースプリット	
	10) フィルム・エンキャプセレーション	
2	修復技術の実際	金山正子.....410
	1) 修復の原則	
	2) 和紙史料の修復	
	3) 洋紙資料の修復方法	
	4) 彩色史料の修復	
	5) 修復の仕様と記録	

あとがき

索引

